



婦人と子ども

第六卷第四號

●●本誌革新の辭●●

願みれば本誌が大方の歡迎を受けつゝ、始めて呱呱の聲をあげたのは、過ぐる卅四年の一月でありました。爾來年を重ねたこと實に五度、一盛一衰は物の免るべからざる道理とて、其間多少本誌の消長、盛衰はありしとは申せ、終始一貫、幼児保育、女子教育に向つての穩健着實なる指針となり、斯道の爲に聊か貢獻する所ありしことは、會員讀者諸君の等しく御認めある事と信じます。然るに時勢はますます斯方面に向つての吾曹の努力を要求する様になりました。戦後の經營と申せば、言ひ古りたる語の様であります。兎に角今日に當りて吾曹の經營すべき急務は家庭教育と女子教育と幼児保育とに在りますれば、此時此際本誌が誌面に一大革新を施して、諸君と相見ゆるに至るは、實に本誌發展の當然の筋路と信じます。一見して本誌はたゞ革新の端緒たるに過ぎないのでありますが、次號以下に於ては尙大に内容の改良に移り出來得る丈け多數の當世名家の所説を紹介し、其他の記事をも一層精選します。正に春陽百花爛漫の秋、外觀内容共に改まり、眞に斯道のため讀者諸君の好伴侶たらんことを期して居ります。

右等の理由よりして、従前は單に會員に頼つただけに止まつたが、今後は廣く一般讀者諸君の需用にも應ずることになりました。其詳細は廣告につきて御承知あらんことを希望します。(牧羊)

女子